

事例名			
生成 AI を活用した個別カスタマイズ型授業			
校種・学年	高等学校・1 年		
教科・科目・単元・題材	芸術科・美術 I ・絵画		
学校名〈任意〉	京都府立清明高等学校	事例報告者氏名〈任意〉	稲岡 秀真
機能名 (アプリ名)	Copilot / ChatGPT / ロイロノート / Google Chrome		
ICT 活用のポイント			
<p>【生成 AI を活用した個別カスタマイズ型授業について】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生成 AI を補助的に用いた表現理解の支援 生成 AI を作品生成の目的ではなく、表現技法や構成理解を助ける補助ツールとして活用。 2. 学習目標と課題の個別化 (カスタマイズ) 生徒自身が目標を設定し、実力に応じた課題やトレーニングを選択できる学習構造の整備。 3. AI による個別フィードバックの活用 制作途中の作品に対して AI の助言を取り入れ、生徒が自ら改善点を見つける学びを支援。 4. 振り返りの自由化による主体的な学びの深化 振り返りの形式を自由化し、生徒が自分の言葉で学びを整理できる環境の構築。 			
活用場面			
<p>【生成 AI を活用した個別カスタマイズ型授業について】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の導入では、生徒が撮影した身近な風景写真をもとに、生成 AI を活用して著名な画家のタッチや色遣いを再現する活動を行った。生成 AI を参考資料として用いることで、抽象的になりがちな表現技法を視覚的に理解し、生徒が自分の制作に生かせる具体的なイメージを持てるようにしている。 2. 制作段階では、生徒が自ら表現の目標を設定し、その目標に応じて課題内容やトレーニング方法を選択する形式を採用した。完成度の一律評価ではなく、自分の実力に応じて挑戦する学習構造とすることで、生徒が無理なく意欲的に制作に取り組む姿が見られた。 3. 生徒は制作途中の作品を生成 AI に読み込ませ、構図や配色についての助言を得ながら制作を進めた。教師の指導を補完する形で AI を活用することで、生徒自身が課題に気づき、試行錯誤しながら表現を改善するプロセスを重視している。 4. 振り返りでは、定型のシートを用いず、生徒が自由に作成したデジタル振り返りシートを使用した。制作過程や思考の変化を自分の言葉で記録することで、学びが可視化され、生徒同士や教師との対話が自然に生まれる授業となった。 			
			
授業者のコメント・児童生徒の主な反応等			
<p>【生成 AI を活用した個別カスタマイズ型授業について】</p> <p>授業者として: 生成 AI を「答えを出す道具」ではなく、「考えを深める相棒」として位置づけることで、生徒の表現が広がった。想定以上に対話が生まれ、教室全体が創造的な空気に包まれたことが印象的である。</p> <p>生徒の主な反応: AI を使っても「自分で作っている」という実感があった。技法のヒントをもらえることで安心して挑戦でき、振り返りも書きたい項目を自分の言葉で書けたことで、作品への納得感が高まった。</p>			